

# Jazz Guitar Lesson

For Jazz Beginner 【15】



Mistletoe Music School

<YouTube 動画URL>

<https://youtu.be/AHW9lQ0yEis>

ロックギタリストのための

## ジャズギター入門シリーズ！【15】

ジャズに初めて挑戦する方を応援する「ジャズギター入門シリーズ」第15回目となりました。今回は「アーティストの演奏から、いかにフレーズを取り入れるか？」を解説していきます。

### — Midnight Blue —

ジャズギター界の巨匠、Kenny Burrell（ケニー・バレル）の代表作の1つでもあり、アルバムのタイトルにもなっている楽曲「Midnight Blue」からフレーズを取り出して分析をしていきます。この盤（1963年録音）はジャケットもカッコ良いし、都会の夜がよく似合うブルージーで洗練された名演です。そして、バレル作曲のタイトル曲は、ミディアムテンポのminor bluesを発展させたような、F minor key/16小節の楽曲。グルーヴィーなりフから始まるバレルのサウンドに痺れること必至。ロック・ブルースばかりやっていた昔の私は完全にノックアウトされました！（<https://amzn.to/2TAOeyV>）



## - Bluesy Phrase -

バレルの演奏からはブルージーな歌心を沢山聴くことができますが、今回は1つご紹介し  
ます。1分8秒と1分30秒でF minor Pentatonic Scaleを用いた同じフレーズを演奏して  
います。バレルは●Bluesyな演奏をする時はスウィング感がシャッフル並みに跳ねてお  
り、後に紹介するような●Jazzyなツーファイブ・フレーズを演奏する際は跳ね感を抑えて  
います。細かくコントロールされていますので注意深く聴いてみましょう。

フレーズはスタート位置、着地位置がとても重要です。何拍目から始まるかをいつも意  
識するようにしましょう。今回のフレーズは2拍目から始まり、次の小節の1拍目の頭で  
着地させています。Midnight BlueはF minor Key、枯葉はG minor Keyですので、枯葉で  
練習出来るように、2フレット平行移動させましょう。

The image shows two musical examples of a bluesy phrase. The first example is in F minor (Fm7) and the second is in G minor (Gm7). Both are in 4/4 time. The notation includes a treble clef staff with a key signature of two flats and a common time signature. The guitar tablature below shows the fret numbers for each note. An orange arrow points from the Fm7 version to the Gm7 version.

今回は、細かなコードチェンジは無視して、大きく「G minor Key」と捉えてこのフレーズを演奏してみましょう

The image shows a musical example of a bluesy phrase in G minor (Gm7). The notation includes a treble clef staff with a key signature of two flats and a common time signature. The guitar tablature below shows the fret numbers for each note. The chords are Cm7, F7, BbM7, EbM7, Am7b5, D7, Gm7, and G7.

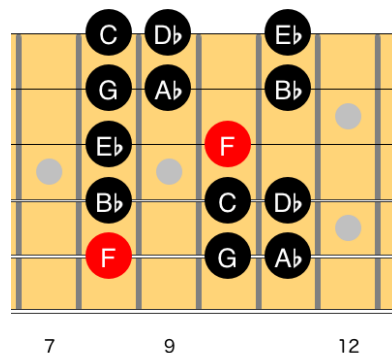
## - 音域・ポジション移動 -

突然、高いポジションでフレーズを演奏すると「取って付けた感」がありますよね。これまでに練習した「コードトーン」「3度」「解決」「アプローチ」などが演奏可能なポジション内で、このブルージーなラインを弾けるようにした方が、アドリブが自然な流れになります。1オクターブ下げて練習してみましょう。

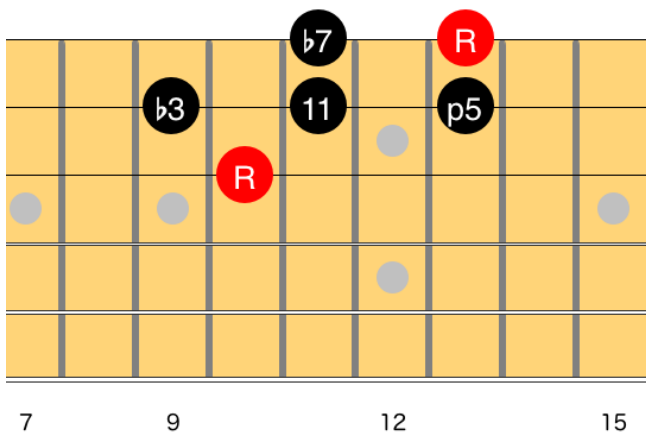
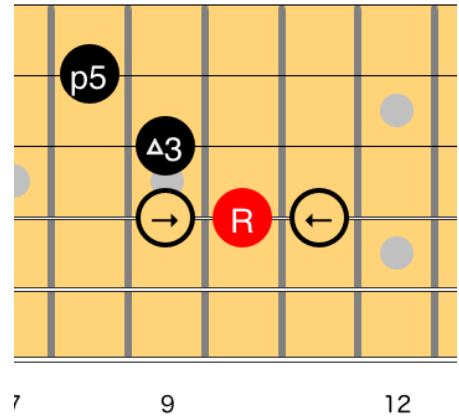
## - ツーフाइブ・フレーズ#1 -

1分16秒のminor keyのツーフाइブ (IIIm7b5 ~ V7 ~ Im) フレーズです。バレルが演奏する音の強弱も意識して聴いてみましょう。(アーティキュレーションと呼びます)

▼Gm7b5では、コードを表現している感じがありません。F minor Scaleで演奏しつつ、次の小節 C7の3度音 (E音) を挟み込んでいます。ここでも大切なのは拍です。1拍目の頭でしっかり着地していますね。



▼C7のRoot音（C音）を半音上下の音で挟み込みを行なっています。ここでも3拍目の頭にターゲット（Root音）を置いていることが重要です。



▼C7のコードトーン装飾後はF minor Pentatonicで歌わせています

## — 枯葉の進行に合わせる —

ブルージーなフレーズ同様、2フレット平行移動させて、「枯葉の5～7小節目」のminor key ツーフाइブ進行へ、フレーズをはめ込む練習をしましょう。

## - 徐々にこれまでの内容とミックスさせる -

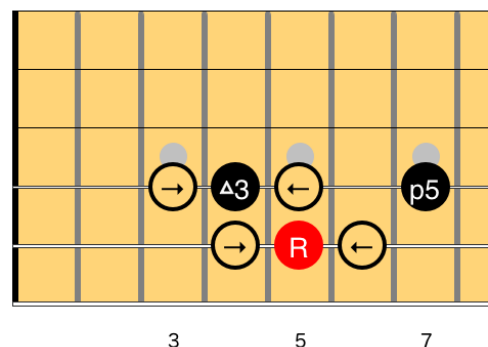
確実に演奏出来るようになったら、1～4小節目はこのシリーズで学んだ内容を演奏してみましょう。1～4小節目で別の内容を弾くと、意識が別の所へ向かうためコード進行や小節感を見失うことがあります。そこで「上手くいかない!」「なにか別の方法があるのでは?」と脇道にそれてはいけません。常にコード進行、拍数を感じながら色々な要素を同時に考えながら演奏するのが練習です。以前にもお伝えしている通り、上達に必要なミスの回数があります。誰だって最初は上手くいかないものですよ。

このツーファイブ・フレーズを弾いていたら、前のブルージー・フレーズなんて、頭から綺麗になくなっていくのが**普通の状態**です。量をこなすことによって、いつでも自由に使用、鼻歌のように演奏出来るようになります。が、最初からスムーズに弾ける方はいませんので、安心して取り組んでください♪言葉を変えて何度でもお伝えします。これが出来ないのが一般的なんです。心に留めておいてくださいね。

## - 音域変更 (1オクターブ下) -

## - シェイプを取り出す -

「3小節の大きなフレーズ」を、枯葉へ応用させましたが、より小さなグループを取り出して応用させてみましょう。D7 (Midnight blueではC7) のコードトーンは右図のようになっています。Root、3rd、5thのトライアドを指板で視覚的に捉えられれば、F7でも使い回すことが可能になります。



Cm7 *sl.* F7 B♭M7 E♭M7  
 1 2 3 4

Am7 ♭5 *sl.* D7 Gm7 G7  
 5 6 7 8

Cm7 *sl.* F7 *sl.* B♭M7 E♭M7  
 9 10 11 12

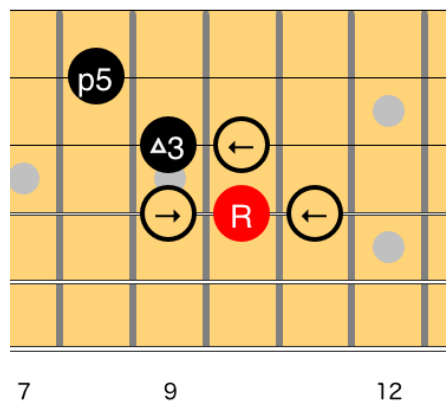
Am7 ♭5 *sl.* D7 *P* Gm7 *sl.* *P*  
 13 14 15 16

- ツーファイブ・フレーズ#2 -

1分48秒のフレーズ

Gm7 ♭5 *P* C7 Fm7  
 8 9 10 11

フレーズ# 2は、# 1でご紹介したものと全く同じアイデアで演奏されています。▼Gm7♭5は、F minor Scaleでシーケンスフレーズ（同じラインの反復）▼C7でも、コードトーンへアプローチをしています。▼続くラインもF minor Pentatonicです。この部分のタメがとてもカッコ良いですね！枯葉へ導入する際は、同様に2フレット上げて演奏しますが、フレーズが小節の半拍前から始まることに注意しましょう。



Chord progression: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7, Am7♭5, D7, Gm7, G7

## - 自分なりに手を加える -

音域変更、ポジション変更、小さなグループを取り出して前後を変換したり、いつも自分なりに手を加える（自分のフィルターを通す）ことを忘れないようにしましょう。



## - ツーファイブ・フレーズ#3 -

1分41秒のフレーズ

▼Gm7 b5では、半音階から入って2弦11フレットB $\flat$ 音を伸ばしています。この音は短3度のコードトーンとなっています。

▼C7の前半はオルタード系（オルタードスケール）の動きですが、ここは型が見にくいので今回は説明しません。（全ての音に意味があるわけではなく、連結のためだけに使用する音もあります）

▼C7の後半はA $\flat$ M7アルペジオを演奏していますが、[次の小節Fm7の先取り](#)と考えます。Fm7 (9) のRootを省くとA $\flat$ M7となります。

▼Fm7では、A♭M7のアルペジオから、2拍目の頭でRoot音（F音）を挟み込みを行なっています。そして、個人的に「何よりもカッコイイ！」と感じるのは3小節目の1番最後のG音（9th）へのスライドです。9thはコードトーンではありませんが、私はCharlie Parkerの演奏などでよく耳にするので好んで使用しています。理論的に説明が付かなくても、良い音だと感じれば使用してもOKです。

きっと、説明可能な方もいらっしゃると思いますし、私も強引に理論に結びつけることは出来ます。語弊のないよう記載しますが、私は理論が好きですし、これまでも沢山学んできました。ただ、ある程度分かった上でも、「素直にカッコイイ！」と言える感性を大事にしたいです。難しいことはしないけれど、感動出来るアーティストは一杯いますからね。

## - 平行移動 -

Am7 b5      D7      Gm7

1312-1110      13-11-10      13-12      15-13      1215      14-16-17      14-15-17      15-17      (17)-15      15

## - Intro -



イントロのリフは下図のようなパターンになっています。このリズムを利用して枯葉の伴奏を練習してみるのも良いかも知れませんね。

Fm

7      3      3      4

## - 音域変更と枯葉への応用 -

Chord progression: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7

Chord progression: Am7♭5, D7, Gm7, Gm7

Chord progression: Cm7, F7, B♭M7, E♭M7

Chord progression: Am7♭5, D7, Gm7, Gm7

▼投げ銭応援箱 <https://www.paypal.me/mistletoepay/1000>

Paypalを使用した投げ銭箱です。額は自由に変更できます。  
まだまだ制作頑張ります。応援、宜しくお願い致します。

